

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4071900833
法人名	(有) かじかわ
事業所名	グループホーム めぐみの里
所在地	〒825-0041 福岡県田川市夏吉364番地 (電話) 0947-45-2409

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	平成21年6月15日	評価確定日	平成21年6月27日

【情報提供項目より】(平成21年5月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 12 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 11 人, 非常勤 9 人, 常勤換算 9 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り 独立型2ユニット 1階建ての 階 ~ 階部分		
------	-----------------------------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	(1号館)27,000円(2号館)22,000円	その他の経費(月額)	(7・8・12・1・2月)13,000円、その他10,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有り(150,000円)	有りの場合 償却の有無	3年/有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(5月20日現在)

登録人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	5 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	5 名		
要介護5	名	要支援2	1		
年齢	平均 84.5 歳	最低 61 歳	最高 96 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田川診療所 木村クリニック 川宮医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームめぐみの里は住宅地の丘の一角にある2ユニットのグループホームである。運営者の生家跡に建てられ、主かと思わせる庭の山桃の大木の周りは椅子やテーブルが置かれ、恒例の夏祭りでは入居者や家族、地域の方々で賑わう場所になっている。その庭を中心にして南北にユニット毎に建てられている。敷地内に通所介護や居宅介護支援・訪問介護事業所もあり、さらに近隣で高齢者専用住宅や介護予防事業も展開しながら、今回運営者が経済的虐待が予想される独居の認知症高齢者を地域包括支援センターや関係機関との連携しながら、ホームへの入居に尽力するなど、高齢者の権利や尊厳を重視したサービス提供を実践している。また、運営推進会議に参加している地域代表より、地域密着型サービスの周知に協力をいただき、ホーム行事を町の広報誌に掲載したり、子ども会の廃品回収に協力するなど地域との交流の機会が増えつつある。昨年に引き続き今年も協力医療機関との連携で、入居者の看取りに関わり貴重な体験を積み重ねており、今後もさらなる尊厳のあるケアへの取組みが期待できる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価を活用し、重複した業務記録を一括して記載している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	職員は外部評価の意義を理解している。実施した自己評価を全職員に回覧し、活用や改善に取り組んでいる。
	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
重点項目③	運営推進会議規程を整備し、行政に委嘱状を交付している。2ヶ月毎の運営推進会議は行政職員・民生委員・家族代表等が参加している。会議ではホームの行事や運営、自己・外部評価内容等を報告している。運営推進会議に参加している地域の代表の口ぞえで、ホームの行事を町の広報誌に掲載したり、口コミ等でホームに立ち寄りの方が増えつつある。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
重点項目④	日々の暮らしぶりや健康状態は毎月発行の「苑だより」や、家族の訪問時や電話で定期的及び随時報告している。共有空間に行事のスナップ写真が掲示され、家族に喜ばれている。金銭出納は定期的に家族に報告し、了承を得ている。成年後見制度等の活用を支援するため、資料を整備し内部研修を実施している。経済的虐待が予測される独居の認知症高齢者を地域包括支援センター等の関係機関と連携しながら対応している。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	恒例のホーム主催の「夏祭り」は家族や近隣の方々の参加も多く、入居者も楽しみにしている。昨年隣組に加入したことで、地域の行事日程が把握でき、子ども会の廃品回収に協力している。また、地元保育園との交流や高校の太鼓演奏、東町住民のギターやお琴の演奏のボランティアの訪問がある。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 〒825-0041 福岡県田川市夏吉364番地	ホームの理念である「その人らしくゆったりと、家庭的な環境と地域との交流の中で暖かいケア」をパンフレットに明記することで、地域密着サービスの周知に努めている。理念を入居者や家族、来訪者等が見やすい共用空間に掲示している。職員も地域と交流しながら、入居者の生活を支援したいと話している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に沿った人材育成を心がけ、ミーティングや定例会議で入居者一人ひとりの出きる事を生かした個別ケアの目標を話し合い、地域との交流を介護計画に位置づけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	恒例のホーム主催の「夏祭り」は家族や近隣の方々の参加も多く、入居者も楽しみにしている。昨年隣組に加入したことで、地域の行事日程が把握でき、子ども会の廃品回収に協力している。また、地元保育園との交流や高校の太鼓演奏、東町住民のギターやお琴の演奏のボランティアの訪問がある。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価を活用し、重複した業務記録を一括して記載している。職員は外部評価の意義を理解し、実施した自己評価を全職員に回覧し、活用や改善に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議規程を整備し、行政に委嘱状を交付している。2ヶ月毎の運営推進会議は行政職員・民生委員・家族代表等が参加している。会議ではホームの行事や運営、自己・外部評価内容等を報告している。運営推進会議に参加している地域の代表の口ぞえで、ホームの行事を町の広報誌に掲載したり、口コミ等でホームに立ち寄り方が増えつつある。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	訪問介護・通所介護・居宅介護支援等の介護サービス事業者でもあり、日ごろから行政担当者と情報交換をしている。経済的虐待が予測される独居の認知症高齢者を地域包括支援センターや介護保険担当者等の関係機関との連携で、ホーム入居を支援している。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者と職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる	入居者の権利10か条を掲示し、日ごろから入居者の権利について話し合い、成年後見制度等の資料を整備している。経済的虐待が予測される独居の認知症高齢者を地域包括支援センター等の関係機関と連携しながら対応している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日々の暮らしぶりや健康状態は毎月発行の「苑だより」や、家族の訪問時や電話で定期的及び随時報告している。共有空間に行事のスナップ写真が掲示され、家族に喜ばれている。金銭出納は定期的に家族に報告し、了承を得ている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にホームや福岡県の苦情相談窓口が記載されたポスターを掲示したり、重要事項説明書に国保連等の相談苦情窓口を記載している。恒例の夏祭りの折に家族会を開催し、家族の意見を募っている。受診支援時の家族からの意見は、対応策を家族に即回答している。再発を防止するために研修を実施し、レポートを提出している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職等に伴い、ユニット間で職員が異動しているが、ユニット毎に培ったスキルを発揮する機会にもなっている。また、運営者は離職を防止し職員の勤労意欲を向上したいと、職員の勤務状況に応じて昇給や手当の支給等考慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	職員採用に性別・年齢の区別はなく、ハローワークや求人広告で職員を採用してる。雇用契約書を整備し、職員の健康診断を支援したり、年次有休休暇の取得や勤務時間等に配慮している。慰労会等で職員のストレス解消に努めたり、資格取得を支援している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	入居者の権利を擁護するために、グループホーム倫理綱領や入居者の権利10ヶ条を共用空間に掲示し、定例会議等で話し合っている。身体拘束に関するマニュアルや高齢者虐待に関するマニュアルを整備し、ミーティング会議等で話し合っている。運営規程・入居契約書に身体拘束防止を明記している。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	平成21年度研修計画を作成し、認知症や感染症、食中毒等の研修を予定している。新規職員研修計画を作成し、ホームの日課や業務内容を指導している。現在、認知症高齢者グループホーム管理者研修を受講中の職員もいる。職員の悩み等は、運営者や管理者、経験豊富な職員がスーパーバイザーとして対処している。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域同業者のグループホーム連絡会に加入し、法令改正等の情報交換をしている。加入している事業所が主催した食事や排泄の研修に参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	同法人運営の訪問介護、通所介護等のサービス利用から入居に至る場合もある。入居者の心身の状況等に沿った支援をするために、同法人運営の高齢者専用住宅等の居住系サービス情報を常に提供している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	前年度から入居者の看取りを経験し、「関わりの過程で死を身近に感じ、多くの学びがあった。」と職員は話している。また、日頃のかかわりで入居者の職歴や生き方に触れることで、感動することもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本情報やフェースシートを整備し、本人の思いや意向、生活歴・職歴・家族構成を把握している。それらの情報を活かした支援を業務記録に記載している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメント、課題の抽出、介護計画作成のプロセスを踏まえ、個別的・具体的な介護計画を作成し、入居者や家族に説明し了承を得ている。入居者や家族の意向を介護計画書に記載している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々のケアのモニタリングを支援経過に記載している。6ヶ月毎に介護計画を見直しているが、毎月の定例会議で入居者の状況を話し合い、随時介護計画を見直している。日勤で変化があれば、主任職員に報告し情報を共有している。担当国会議録を整備している。	○	現状に即した介護計画を実践するために、サービス内容管理表を活用して、アクティビティ等を記載してはどうか。業務記録様式を検討したいとのことなので、日々のケアの記録がそのままモニタリングになる様式の整備を期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の状況に応じて医療機関受診を支援し、重度化を防止している。同法人運営の居宅介護支援で関わっていた認知症高齢者が関係機関との連携でホームに入居している。また、同敷地内の通所介護を入居者が利用することもある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する医療機関や認知症専門医受診を支援したり、協力医療機関に往診をお願いしている。主治医の指示等は支援経過に記載し、全職員に周知したり、状況に応じて家族に連絡している。バイタルや服薬管理状況を看護記録に整備し、医療連携に活用している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本年度も入居者や家族意向に沿って協力医療機関との連携でホームで看取っている。泊り込みを希望された家族や看護師、職員と連携しながら安らかな最後を支援している。看取りは大変な心労だったが、職員は介護力の向上と自信につながり、高齢化・重度化が進むホームの状況から、経験を今後活かしたいと話合っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居契約書に守秘義務や個人情報の利用目的を明記し、入居者や家族に説明し同意を得ている。共用空間に個人情報保護規程を掲示したり、サービス規程に守秘義務等を明記している。入居者の尊厳に配慮したゆったりとした声かけで食事、移動、排泄、口腔ケアの見守りや誘導、介助をしている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各入居者の希望や意向を把握し、個別の買い物に同伴したり、医療機関受診の帰路、入居者の希望で自宅や馴染みの場所に立ち寄りたりしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下準備、配膳、食器拭き等で、入居者の力量に応じた関わりを支援している。誕生日会ではチラシ寿司や刺身等、入居者の好みの献立にしている。各ユニットで毎日の献立は異なるが、庭で採れた野菜や旬の果物を添えて入居者に喜ばれている。その場で刻み食にするなどゆったりとした食事支援のため、全量摂取の入居者がほとんどである。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	心身の状況に応じて、週2～3回の入浴やシャワー浴を支援している。全介助の入居者には2人体制の介助で支援したり、福祉用具も活用しているが、入居者の不安が大きくなるように入るのが困難な場合もある。		
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	恒例の夏祭りや餅つきを、入居者、家族、地域の方々と楽しんでいる。最近始めたケアビクスは入居者に人気があり、日課となっている。1号館ではテラスで体操をしたり、涼んだりしている。職歴等から畑づくり・料理等をお願いしているので、エプロンをかけて生き生きと食器を拭く入居者もいる。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	車椅子利用の入居者が多くなり、全員で出かけることは難しくなったが、今春は近隣にお花見等に出掛けている。医療受診の帰路、自宅や馴染の場所を訪たり買い物をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が施錠の弊害を理解している。外出傾向のある入居者は見守りで対応しているが、外出した入居者もいた。外出先が予測できたので大事には至ってないが、状況に応じて施錠することを家族に説明し、了解を得ている。運営推進会議を通じて民生員・老人会に理解や協力を依頼している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常災害マニュアル、連絡網を整備している。今年3月、運営推進会議に協力を呼びかけ避難訓練を実施している。消火器の設置もある。運営者は防火管理者研修を受講し、市にスプリンクラーの設置助成を申請している。紙オムツ、医療用ガーゼ、消毒薬等を備蓄している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	市販等の献立表を活用し、摂取カロリーや栄養のバランスを考慮した献立を作成している。協力医療機関の検査でたんぱく質の摂取状況を把握したり、毎月の体重測定で増減に注意している。水分摂取量はサービス内容管理表に記載している。咀嚼や嚥下状況に応じて、刻み食にしたりしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
31	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前の庭は季節の花が植えられ、主かと思わせる山桃の大木の周りは椅子やテーブルが置かれ、恒例の夏祭りの場所になっている。庭を中心にして南北にユニット毎に建てられ、両ユニットの玄関に椅子を設置している。ホームが高台にあるため明るく風通しも良く、1号館は前の竹やぶがなくなり、さらに見晴らしが良くなり、テラスで夕涼みや体操をしている。各ユニットの共用空間は段差のないバリアフリーで要所に手すりが設けられ、椅子やテーブル、ソファの配置を工夫し、寛げる場所を提供している。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室はお仏壇やダンス、馴染みの家具、日用品等が置かれ、壁には本人や家族の写真の掲示もあり居心地よく過ごせる工夫がある。畳敷きの居室もあり、入居者の心身の状況に応じて、マットレス・ベットを使用している。		